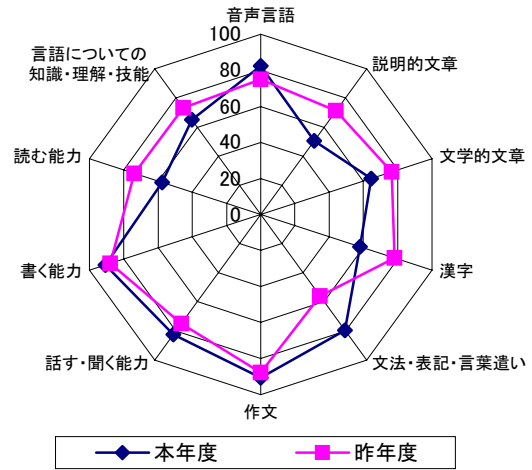


宇都宮市立鬼怒中学校第1学年【国語】領域別／観点別正答率

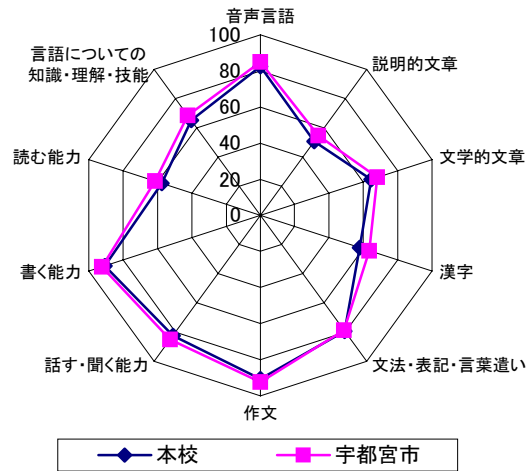
★本校の本年度と昨年度の状況

		本校	
		本年度	昨年度
領域別	音声言語	82.4	75.0
	説明的文章	50.5	71.1
	文学的文章	64.5	76.4
	漢字	57.9	78.0
	文法・表記・言葉遣い	79.3	56.0
	作文	90.6	87.8
観点別	話す・聞く能力	82.4	75.0
	書く能力	90.6	87.8
	読む能力	57.5	73.8
	言語についての知識・理解・技能	65.0	73.1



★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	82.4	84.9
	説明的文章	50.5	54.6
	文学的文章	64.5	68.0
	漢字	57.9	63.4
	文法・表記・言葉遣い	79.3	78.8
	作文	90.6	92.3
観点別	話す・聞く能力	82.4	84.9
	書く能力	90.6	92.3
	読む能力	57.5	61.3
	言語についての知識・理解・技能	65.0	68.5



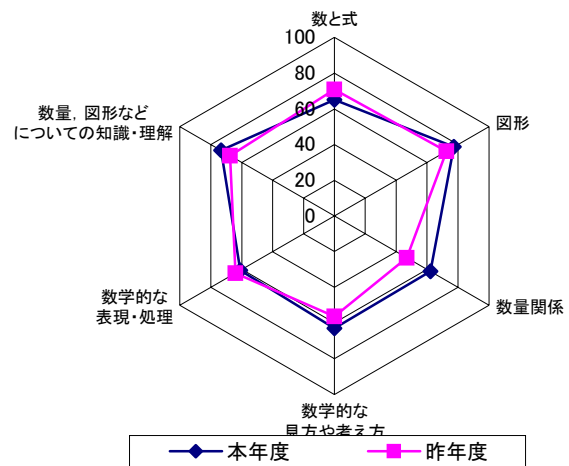
★指導の工夫と改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
音声言語 (82.4%)	・昨年度より7.4%増加し、おおむね満足できる状況である。しかし、市の平均よりやや下回っており、さらなる努力が必要である。	・授業中の「聞く・話す」という活動の機会を増やし、ポイントを押さえた指導をしていきたい。
説明的文章 (50.5%)	・昨年度より20.6%減少しており、あまり満足できる状況とは言えない。小問別に見ると、文脈に即した内容の理解が不十分である。	・文章の段落分けや段落ごとの要点の捉え方、筆者の主張のつかみ方などを丁寧に指導していきたい。
文学的文章 (64.5%)	・昨年度より11.9%減少しており、あまり満足できる状況とは言えない。小問別に見ると、文脈に即した内容の理解が不十分である。	・場面の展開に即した内容理解ができるように指導を工夫していきたい。
漢字 (57.9%)	・昨年度より20.1%減少しており、満足できる状況とは言えない。特に、漢字の書き取りの誤答が多い。日頃から、漢字を使って文章を書く習慣がないからであると考えられる。	・定期的に漢字の小テストを実施し、漢字の読み書きの機会を増やしていきたい。
文法・表記・言葉遣い (79.3%)	・昨年度より23.3%という大幅な上昇が見られた。市の平均も上回っており、着実に力を付けていると言える。	・今後も引き続き、文法や語句に関する知識の積み重ねを着実にする指導をしていきたい。
作文 (90.6%)	・昨年度よりやや増加しており、十分満足できる状況である。文章を書く力は比較的優れていると言える。	・今後も引き続き書く機会を多く持ち、作文力がつくよう指導していきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校第1学年【数学】領域別／観点別正答率

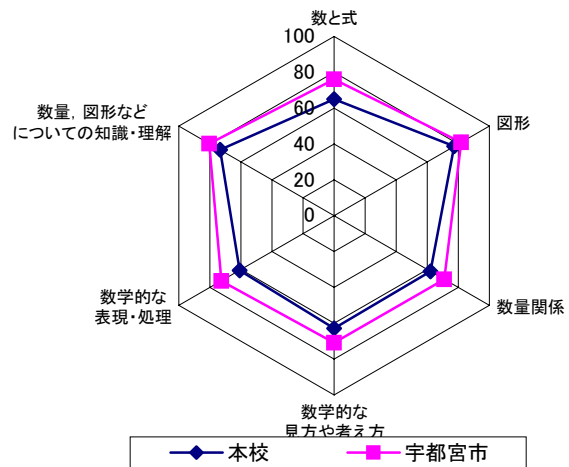
★本校の本年度と昨年度の状況

		本校	
		本年度	昨年度
領域別	数と式	65.1	70.7
	図形	77.3	72.5
	数量関係	62.0	46.7
観点別	数学的な見方や考え方	62.9	56.4
	数学的な表現・処理	60.9	64.0
	数量、図形などについての知識・理解	73.4	67.4



★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	65.1	76.1
	図形	77.3	81.7
	数量関係	62.0	71.0
観点別	数学的な見方や考え方	62.9	71.0
	数学的な表現・処理	60.9	72.7
	数量、図形などについての知識・理解	73.4	80.3



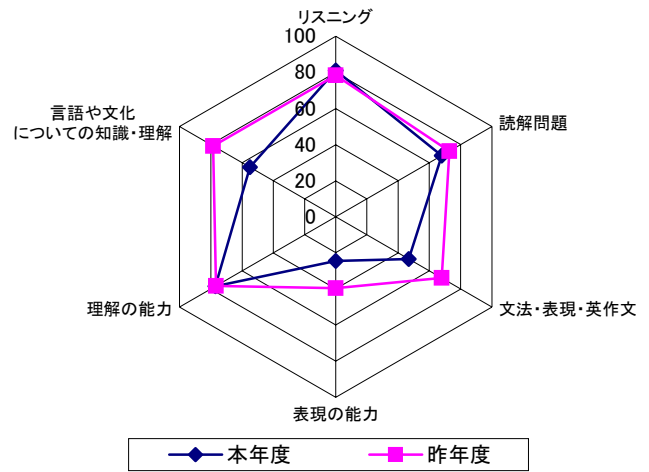
★指導の工夫と改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
数と式 (65.1%)	あまり満足した状況とはいえない。方程式を解く際の移項ミスなど、基本的な計算においても力不足が目立つ。	・授業内容を充実させる。 ・単元末テストや定期テストの事後指導を行うなどの補習を計画的に実施したい。
図形 (77.3%)	あまり満足した状況とはいえない。調査の実施時期の直前に学ぶ学習内容であるため、十分な学習時間が確保できないことも原因の1つと考えられる。	・1学年の図形領域の内容は、基礎的な内容が多く、平均正答率を80%に近づけることは可能であると考えられる。引き続き指導方法の工夫に力を入れていきたい。
数量関係 (62.0%)	昨年度の平均正答率と比べると15.3ポイント上昇したが、まだまだ満足した状況とはいえない。「×」を省くなどの文字式の表し方が理解できていない。 宇都宮市全体の平均があまり満足した状況ではないことから、一般的に関数を得意としていない生徒が多いと考えられ	・関数の考え方と具体的な事象を結びつけ、身近なことであることを実感させることが理解を深めることにつながる。教材研修の充実を図りたい。

宇都宮市立鬼怒中学校第1学年【英語】領域別／観点別正答率

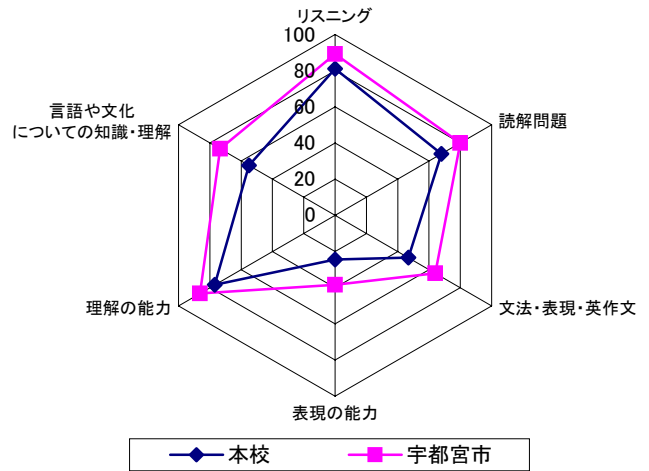
★本校の本年度と昨年度の状況

		本校	
		本年度	昨年度
領域別	リスニング	81.1	78.4
	読解問題	67.8	72.6
	文法・表現・英作文	46.7	67.8
観点別	表現の能力	24.4	39.5
	理解の能力	76.9	76.6
	言語や文化についての知識・理解	55.0	78.4



★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	リスニング	81.1	89.1
	読解問題	67.8	80.0
	文法・表現・英作文	46.7	63.9
観点別	表現の能力	24.4	38.5
	理解の能力	76.9	86.2
	言語や文化についての知識・理解	55.0	73.4



★指導の工夫と改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
リスニング (81.1%)	平均正答率は、80%を越え概ね満足な状況といえる。が、市の平均正答率よりも8ポイント不足している。小問別に見ると、対話の内容把握においては、昨年度よりも減少し満足した状況とは言えない。	ALTの授業回数が増えたことやCDの活用が効果的であることから今後も継続していきたい。内容把握に関する具体的なポイントを提示してから学習を進めたり、短文の概要を把握する訓練をしていきたい。
読解問題 (67.8%)	平均正答率は、80%を下回っている。昨年度よりも5ポイント減少し市の平均を13ポイント下回っている。小問別に見ると対話文の空所選択において不十分な状況がでている。	内容を読みとるポイントの提示や把握した内容の確認を丁寧に行うとともに、短文の内容を確認する活動を継続していきたい。
文法・表現・英作文 (46.7%)	昨年度の平均正答率より20ポイント減少し、小問別に見ると和文英訳においての不十分な状況が出ている。	前年同様に、あらゆる機会を捉えて英語で表現する活動を継続するとともに、基本文が定着するような活動を工夫していきたい。単語、短文を書く機会を増やしていきたい。